

# クオラグループ管理職研修会「介護職の教育システム」

(8月18日開催)

介護職を取り巻く労働環境の変化と質に関する現状は厳しいものがあり、色々な課題を抱えています。当グループにおきましても、色々な施設でたくさんの介護職員が御利用者のために少しでもよいケアをと日々奮闘しています。そんな中、介護職員がいきいきとやりがいを持って働ける職場にするための教育システムについて研修会を企画しました。

今回は、長野県上田市真田町で高齢者福祉の先駆的な取り組みをされている、高齢者総合福祉施設アザリアンさなだの施設長 宮島渡氏と研修担当マネージャーの田中文子氏をお招きしました。



宮島先生のテーマは、ずばり「地域でねばる」。アザリアンさなだの歩みを紹介しながら、自分達が目指すケアの方向性とゆるぎない姿勢で実現していくその様子に力強さを感じました。“家や地域で暮らしたい”というニーズに対して施設機能を出前する“地域分散型サテライトケア”の展開は、地域で暮らす人々の真のニーズであり、QOLの向上に必ずつながると思いました。

田中先生は、研修担当マネージャーとして実践してこられた介護職員教育の在り方について、具体的に教えて頂きました。“教育はゆっくり焦らずに、丁寧に”という方針の下、時間をかけて職員一人ひとりに向き合い、自分達が目指すケアを語り継いでいく。目指すケアに必要な知識・技術を一つひとつ確実に指導していく教育システムは、自施設の現状を振り返る貴重な機会になりました。

両先生の話を通してのキーワードは、“共感”。患者・御利用者・御家族の想いに共感、教育を受ける側の職員の気持ちに共感することのできる人を育てる管理者でありたい。常に“共に育つ”という姿勢で教育に携わる重要性を痛感した一日でした。